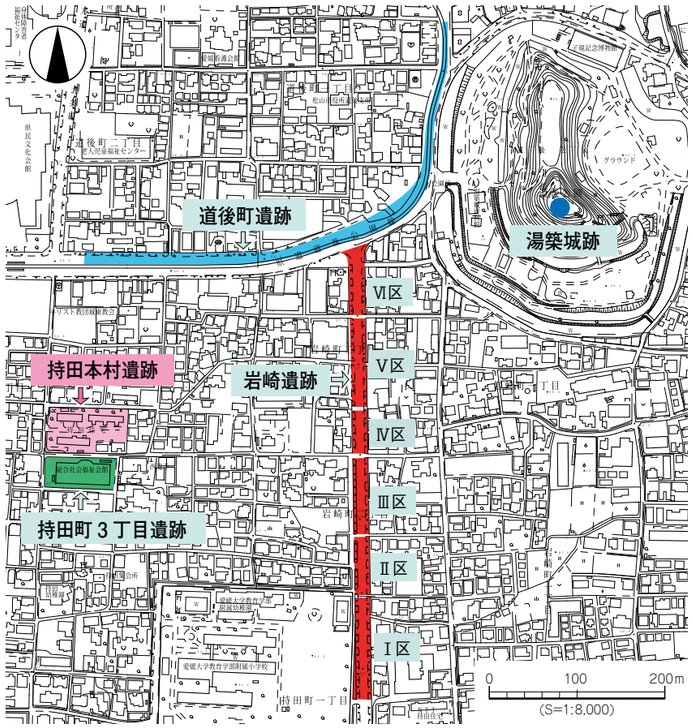
持田本村遺跡（もちだほんむらいせき）　現地説明会資料

2015（平成 27）年 6 月 27 日（土）
A.M.10：00 ～ 11：00

調査場所：松山市南町一丁目 837 番 1 の一部
調査期間：2015（平成 27）年 4 月 16 日（木）～同年 6 月 30 日（火）
調査面積：約 380㎡
調査要因：分譲マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
調査主体：公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター

1. はじめに

持田本村遺跡は、民間による分譲マンション建設に伴い実施した埋蔵文化財の発掘調査です。調査地が所在する『道後城北地区』は、松山市内でも有数の遺跡地帯として知られています。調査地周辺では、調査地南側に持田町 3 丁目遺跡（平成 5 年度調査）があり、縄文時代晩期の土坑や弥生時代前期の土坑墓、土器棺墓のほか、古墳時代の竪穴建物などが多数確認されています。また、調査地東方には岩崎遺跡（平成 8・9 年度調査）があり、弥生時代前期の大溝や 180 基余りの貯蔵穴群のほか、古代の建物址や中世の水田址などが検出されています。また、調査地北方には道後町遺跡（平成 11 ～ 15 年度調査）があり、縄文時代から近世までの遺構や遺物が数多く発見されています。



第 1 図　周辺遺跡分布図

2. 調査の概要

調査では、縄文時代から近世までの遺構や遺物を発見しました。見つかった遺構は、竪穴建物 6 棟（古墳時代）、溝 5 条（弥生時代･古墳時代･近世）、土坑 16 基（縄文時代･古墳時代）、土坑墓 1 基（弥生時代）、柱穴 27 基です。調査は、4 つの地区（1 ～ 4 区）に分けて実施しました。ここでは、時代別に検出した遺構や遺物の説明をします。

●縄文時代	土坑	7 基〔1 区－ SK101 ～ 106（晩期）〕
		〔2 区－ SK201（晩期）〕
●弥生時代	溝	1 条〔2 区－ SD204（前期）〕
	土坑	1 基〔4 区－ SK401（前期以前）〕
	土坑墓	1 基〔4 区－ SK402（前期）〕
●古墳時代	竪穴建物	6 棟〔2 区－ SB201 ～ 203（中～後期）〕
		〔3 区－ SB301 ～ 303（中～後期）〕
	溝	2 条〔2 区－ SD202・203（中期）〕
	土坑	8 基〔2 区－ SK202 ～ 205（後期）〕
		〔3 区－ SK301 ～ 304（後期）〕
●江戸時代	溝	2 条〔1 区－ SD101、2 区－ SD201（前期）〕

※古代～中世の遺構は未検出ですが、包含層や撹乱内より土師器や須恵器、陶磁器等の遺物が出土。
（注）遺構名は、略号で表記しています〔竪穴建物：SB、溝：SD、土坑：SK、柱穴：SP〕

写真 1　遺跡周辺の航空写真　（平成 15 年度撮影）

第２図　調査区位置図

写真２　３区・４区遺構検出状況（西より）

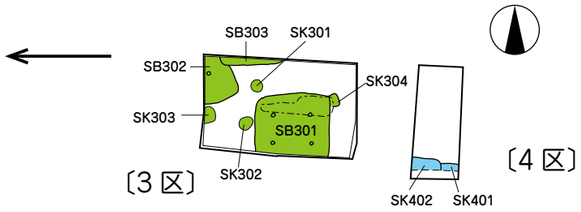


写真３　２区遺構検出状況（北より）

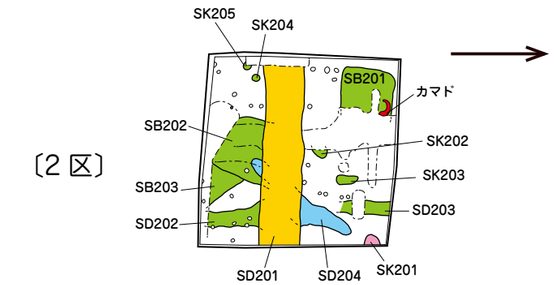
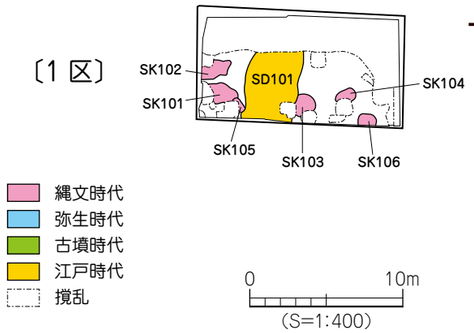


写真４　１区遺構検出状況（北東より）



第３図　遺跡変遷図

１区の調査

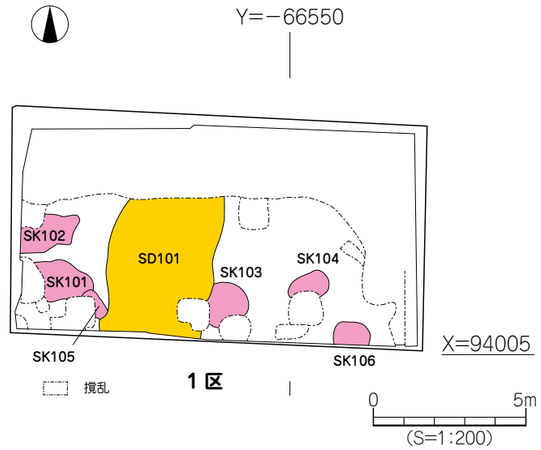
【検出遺構】

溝　：１条〔SD101：江戸時代〕

土坑：６基〔SK101 ～ SK106：縄文時代〕

１区では、縄文時代晩期の土坑と江戸時代の溝を検出しました。SD101 は南北方向にのびる最大幅 3m、深さ 1.0 ～ 1.3m の溝で、溝内からは 17 世紀初め頃に使用された土師器のほか、唐津焼の碗や皿などが多数出土しています。

写真５　SD101 断面（北より）



第４図　１区遺構配置図

写真６　SD101 出土遺物（唐津焼）

縄文時代の土坑のうち、SK101 は検出長 1.3m、幅 0.8m、深さ 50cm の楕円形土坑で、土坑底面からは直径 10cm 大の小穴３ケが見つかりました。おそらく、小穴は杭のようなものが打ち込まれた痕跡と考えられることから、動物などの獲物を捕獲するための落とし穴として利用されたと考えられます。土坑内からは、数多くの土器片のほかにサヌカイトや黒曜石でつくられた石器（スクレイパー）が出土しています。

この落とし穴にはとがった棒（ぼう）がさしてあるので、イノシシはその棒に刺さったり、身体がはさまって、身動きができません。

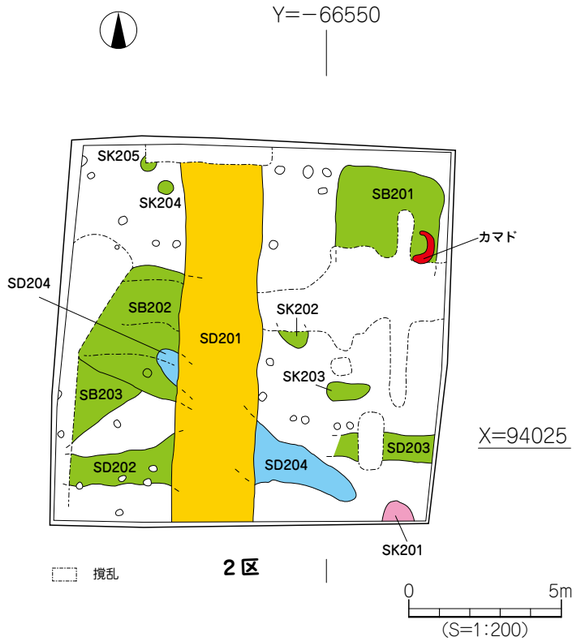
写真７　SK101（西より）

２区の調査

【検出遺構】

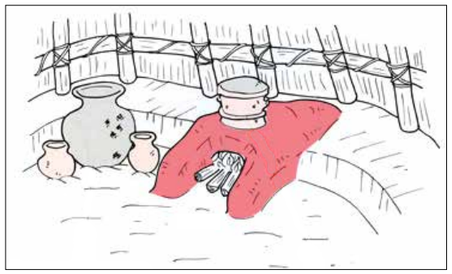
竪穴建物：３棟〔SB201 ～ 203：古墳時代〕
溝：４条〔SD201：江戸時代〕
〔SD202・203：古墳時代〕
〔SD204：弥生時代〕
土坑：５基〔SK201：縄文時代、
〔SK202 ～ 205 古墳時代〕
柱穴：27 基〔弥生～古墳時代〕

２区では弥生時代前期の溝や、古墳時代の竪穴建物や溝・土坑、江戸時代の溝を検出しました。このうち、弥生時代の溝 SD204 からは、ほぼ完全な形の壺が出土しました。このほか、古墳時代の竪穴建物は平面形態が方形で、SB201 には厨房設備であるカマドが付設されていました。出土遺物より、SB201 と SB203 は古墳時代中期後半（5 世紀後半）、SB202 は古墳時代後期前半（6 世紀前半）の建物と考えられます。また、SD202 と SD203 は同一の溝で、SD202 からは口縁部の一部分を打ち欠いた壺が出土しています。江戸時代では、溝 SD201 を検出しました。これは、1 区で検出した溝 SD101 と同一の溝です。



第５図　２区遺構配置図

写真８　SD202 遺物出土状況（西より）



古墳時代のかまど

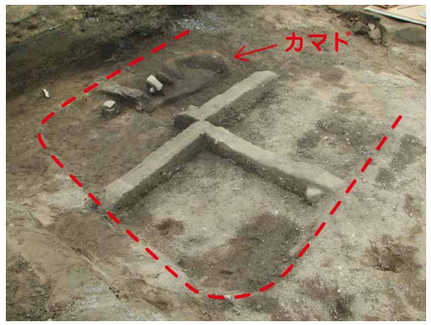
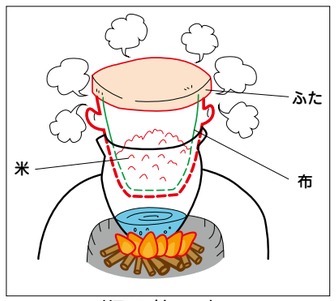
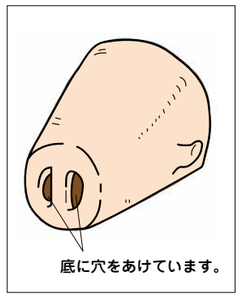


写真９　SB201 検出状況（北東より）



甑の使い方



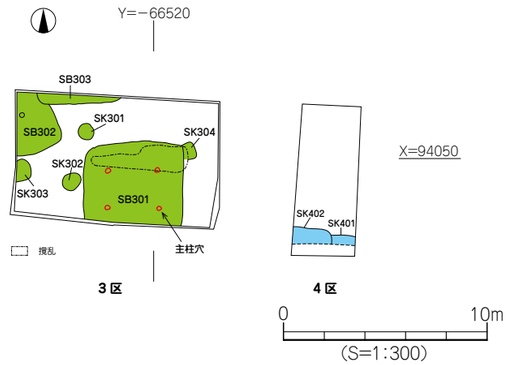
甑（こしき）

３区の調査

【検出遺構】

竪穴建物：3 棟〔SB301・302：古墳時代中期〕
〔SB303：古墳時代後期〕
土　坑：4 基〔SK301 ～ 304：古墳時代後期〕

３区では、古墳時代の竪穴建物と土坑を検出しました。SB301 からは屋根を支えるために掘られた柱の穴（主柱穴）4 本が見つかりました。なお、竪穴建物からは、土師器の甑や須恵器の坏蓋・坏身・高坏などが数多く出土しています。



第６図　３区・４区遺構配置図

写真 10　SB301 検出状況（西より）

写真 11　SB301 出土遺物（須恵器）

４区の調査

【検出遺構】

土　坑：1 基〔SK401：弥生時代前期以前〕
土坑墓：1 基〔SK402：弥生時代前期〕

４区では、弥生時代前期後半（紀元前 2 世紀）頃の土坑墓が検出されました。土坑南側は、近現代の攪乱により削平されています。検出長 1.3 m、検出幅 0.4 m、深さ 15cm の楕円形状の墓坑に小型の壺が副葬されています。調査地南側に隣接する持田町 3 丁目遺跡からは同時期の土坑墓が多数検出されており、SK402 は、それらの土坑墓に関連する遺構と考えられます。

写真 12　SK402 小型壺出土状況（西より）
口縁部は欠損していますが、胴部径 12cm、底径 8cm の小型壺で、ヘラ状工具の使用による木の葉文が描かれています。

３.わかったこと

今回の調査では、縄文時代から江戸時代までの遺構や遺物が見つかりました。とりわけ、縄文時代の遺構は松山平野において検出例が少なく、縄文遺跡を研究するうえで貴重な資料といえます。なお、弥生時代では持田町３丁目遺跡で検出した土坑墓群と関連する遺構（SK402）を検出したことから、調査地や近隣地域には、広範囲に墓域が展開しているものと推測されます。また、古墳時代は弥生時代と異なり、竪穴建物が多数検出されており、古墳時代中期から後期、５世紀後半から６世紀にかけて居住域として土地利用されていたものと考えられます。

【参考資料】

①　持田町３丁目遺跡

所　在　地：松山市持田町３丁目 264 番　外
調査期間：平成５年８月２日（月）～同年 10 月 17 日（日）
調査面積：約 1,500㎡
調査要因：愛媛県総合社会福祉会館建設
調査主体：（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター
主な時代：縄文時代～中世
主な遺構：竪穴建物 17 棟（古墳時代）、
土坑４基（縄文時代・古墳時代）、
土坑墓 24 基（弥生時代前期）、
土器棺墓 11 基（弥生時代前期・後期）

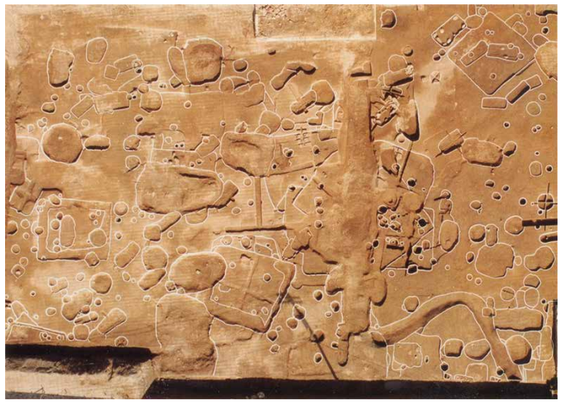


写真 13　持田町３丁目遺跡全景

写真 15　調査地全景（北より）

第７図　持田町３丁目遺跡 遺構配置図

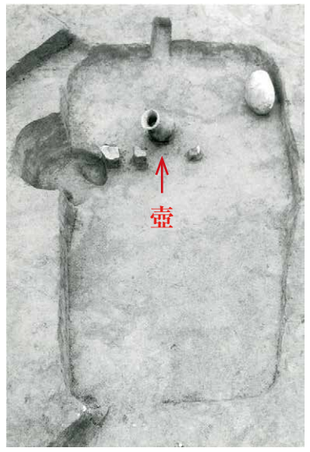


写真 14　土坑墓検出状況

②　岩崎遺跡

所　在　地：松山市持田町１丁目、岩崎町２丁目
調査期間：平成８年６月３日（月）～平成 10 年３月 31 日（火）
調査面積：約 13,000㎡
調査要因：松山環状線（岩崎）道路改良工事
調査主体：（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財調査センター
主な時代：弥生時代～中世
主な遺構：竪穴建物３棟（弥生時代中期・後期）、
掘立柱建物８棟（古代･中世）､溝 36 条（弥生時代～中世）、
土坑 185 基（弥生時代前期）、自然流路３条（中世）、
水田址（中世）、畑址（中世）

写真 16　貯蔵穴検出状況（北より）

写真 17　水田址（足跡）検出状況（東より）

③　道後町遺跡

所　在　地：松山市道後町１～２丁目
調査期間：平成 11 年 5 月 6 日（木）～平成 12 年 8 月 4 日（金）
平成 12 年 1 月 17 日（月）～平成 15 年 8 月 29 日（金）
調査面積：約 12,560㎡（1 次：3,450㎡、2 次：9,110㎡）
調査要因：都市計画道路東一万道後線（道後工区）整備事業
調査主体：（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター
主な時代：1 次－弥生時代～中世
：2 次－縄文時代～近世
主な遺構：1 次－掘立柱建物１棟（中世）、溝９条（弥生・中世）、自然流路５条（弥生・中世）、
土坑４基（弥生）、柱穴４基（弥生・中世）
2 次－竪穴建物２棟（古墳時代）、溝 28 条（弥生・古墳中世・近世）、
自然流路７条（縄文・弥生・古代・中世）、土坑 334 基（弥生・古墳・中世・近世）、
土坑墓 12 基（中世・近世）、柱穴 2009 基（弥生・古墳・中世・近世）